

「余命1ヶ月の花嫁」

TBS「イブニング・ファイブ」／編

株式会社マガジンハウス 2007年12月発行

2階一般開架図書<常設展示> (請求記号：916/34)

～愛する人が「あと1ヶ月の命」と言われたらあなたは どうしますか？ ～

本書は、乳がんのため24歳6ヶ月という若さで亡くなった女性の闘病生活最後の1ヶ月取材したテレビ番組が編纂したものです。「若い人に病気のことを知ってほしい」「異変に気付いたら体を大切にしてほしい」という彼女の思いを聞いた友人が、マスコミ関係者を探し始め、テレビ局の記者が取材してくれることになり、テレビ放映→番組の書籍化、そして今年の5月には映画も公開されることになりました。

病気の発覚からわずか2年で死を迎えた彼女。20代～30代前半で罹患した場合、がんの進行が早く、手術を行っても再発の可能性が非常に高いと言われています。

また、乳がんの進行は0期からIV期で分類され、最も早期の0期では10年生存率(診断から10年後に生きている割合)は90%を超えるが、最も進んだIV期では30%未満と大幅に下がり、いかに早期発見が重要なことかが伺えます。

最後まで人を愛し、人に愛され、まわりの人に感謝しながら最後の瞬間まで前向きに自分らしく生きた彼女のラストメッセージを聞いてみませんか。また、がんの発症と同時期に出会った彼との「愛と命の日々」を読んでみませんか。

「小さな反逆者」

C・W・ニコル／作 鈴木晶／訳

福音館書店(福音館文庫) 2002年6月発行

1階児童開架図書(請求記号：93/ニコ)

作家で、ナチュラリストとしても知られるC・W・ニコルは、1940年ウェールズに生まれ、イングランドで育った。その彼の3歳から13歳までの回想記。

”少年”は幼い頃、読み書きするのを頑なに拒んだ。入学してからもしばらくは字が書けず、先生にしかられ、友だちにからかわれ、学校が嫌いになった。”少年”は森や林の中で、自分だけの空想の世界に浸り、野生の動物を観察するうちに、夕食の時間も寝る時間も忘れてしまい、母親にしばしば怒られた。

周囲との軋轢に苦しむ中にも、反逆者としての反発心を”少年”の中に垣間見ることができる。そして、どんな苦悩も自然の中での喜びが忘れさせてくれるかのようだ。著者自身の手によるカットも味わいがある。

元々は1985年に「福音館日曜日文庫」の一冊として出版されたもの。福音館文庫として出版するに当たり、新たなあとがきが付けられている。